様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６８７００５１

研究課題名（和文）現代モンゴルにおける人と宗教の移動に伴う新たな共同体形成に関する宗教社会学的研究

研究課題名（英文）Sociological study on new communities formed by cross-border religions in contemporary Mongolia

研究代表者
滝澤　克彦（TAKIZAWA, Katsuhiko）

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：８０５１６６９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、モンゴル国における人の移動にともなうグローバルな宗教活動とそれによって結ばれる新たな共同体の機構と特質を、モンゴル国・韓国・英国・米国における参与観察調査を中心とした調査資料の分析を通して明らかにしようとした。その結果、国外において活性化した人々の民族意識が、しばしばキリスト教や仏教と結びついて独特の連帯意識として醸成され、それが儀礼や礼拝、宣教活動などを通じて、具現化されていることが分かった。また、そのようにして形成された宗教的共同体は、宗教活動以外の日常生活においても、相互扶助や慈善活動を通して重要な役割を果たしていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to investigate the mechanism and characteristics of new Mongolian communities formed by cross-border religions, by conducting fieldwork in Mongolia, South Korea, UK, and USA. Result from my study illuminates the fact that religions such as Christianity and Buddhism have played an important role in connecting Mongolians living abroad whose ethnic consciousness had been revitalized in foreign countries. Their ethnic consciousness is embodied at their religious activities such as rituals, prayer services, and missionary activities which are oriented not only to Outer Mongolians, but also to the “Mongols” including Inner Mongolians, Buryats, and other people derived from the Mongol Empire. These religious communities and networks also serve as the basis of reciprocal help activities and philanthropic programs.

研究分野：宗教社会学

キーワード：宗教社会学　モンゴル研究　人口移動　宗教の越境　福音派　民族主義

１．研究開始当初の背景

モンゴル国は、1990 年の社会主義体制崩壊以降、めまぐるしい社会的変化を経験してきた。一つには、遊牧民の都市への移住や国外への出稼ぎなどによる人口の著しい流動化という現象がある。それは、社会主義圏以外の諸外国に対して閉ざされていた門戸が一挙に開き、モンゴル社会のグローバル化が急速に進展したことと関係している。

一方で、逆の流れとして、これまでモンゴル国に存在していなかった情報や文化がモンゴル国へなだれ込んでくる事態が生じてきた。そこには、キリスト教などの外国宗教も含まれている。そもそもモンゴル国では、社会主義時代には反宗教政策がとられてきたが、社会主義崩壊以降めざましい宗教復興の動きがあり、そのなかで仏教など在来宗教の復活とともにキリスト教など外国宗教の流行現象が起き、その宗教的状況はきわめて複雑な様相を呈してきたのである。そこに人口の流動化という傾向が重なり合った結果、人と宗教の移動に伴う新たな宗教的共同体の形成が、草原、都市、国外というそれぞれのモンゴル人社会で見られるようになっている。

特に、1990 年代には都市部では草原からの移住者を取込みながらキリスト教が急速に発展してきた。その結果、現在では仏教寺院の数よりキリスト教会の数の方が多くなるという状況が生じている。また、2000 年代に入ってからは、首都のウランバートルを中心にシャマニズムを通じた新たな連帯が生まれつつある。シャマニズムは本来、民族宗教的な性格をもつものであるが、最近では教団的な性格を帯び、新たな共同性を生み出してきた。

国外に目を向けると、韓国や米国における出稼ぎ労働者や移住者のモンゴル人社会においては仏教がモンゴル人のアイデンティティ維持において重要な役割を果たしている。しかし、一方で、キリスト教会が彼らのコミュニティ形成の場となっている事態も見られる。例えば、米国ではモンゴル人によるキリスト教会が 17 存在し、また韓国には 70 を超える家庭集会のグループが存在する。そのような教会は、一種の移民コミュニティとしての役割を担っている。

また、依然として仏教徒がマジョリティをしめる草原部でも、2005 年ころからキリスト教が進出してきている。

以上のような状況に対して、これまで、個別の宗教の現状に関する研究（島村一平『増殖するシャーマン』2012 など）や、概略的な調査研究は存在したものの（S. Tsedendamba, Монгол Улс дахь Шашины Нөхцөл Байдал（モンゴル語：モンゴル国の宗教状況），2003 など）、特定のコミュニティを対象とした詳細な宗教社会学的研究が行われることはなかった。

それに対して、本研究は、草原、都市、国外のそれぞれの地域の特定のコミュニティにおいて緻密なフィールドワークを実施し、そこで諸宗教がどのように相互作用しながら新たな宗教的共同体を生み出しているのかという点を、宗教社会学的観点から明らかにしようとするものである。

２．研究の目的

1990 年の社会主義体制崩壊後、急速にグローバル化が進展してきたモンゴル国においては、遊牧民の定住化に伴う国内移動や出稼ぎ労働などを目的とする国際移動が増加してきた。一方、流動化するモンゴル社会において、キリスト教やシャマニズムの流行、仏教復興運動など、社会主義解体後の宗教活性化が新たな社会的連帯を生み出すきっかけとなってきた。

本研究では、特にキリスト教福音派を軸にしながら、その宗教的共同体の形成について、草原と都市、国外においてより詳細な調査を実施すると同時に、それぞれの地域でキリスト教共同体と他の宗教集団あるいは社会集団がどのような相互関係をもっているかを明らかにする。

都市部においては、諸宗教が他宗教と、家族や学校、職場などさまざまな場面で混ざり合って存在している状況である。そのような宗教の混在状況のなかで、特に草原などからの新たな移住者が、都市において新たな連帯や共同体を形成していくときに、諸宗教がそれぞれどのような役割を果たしているかを明らかにする。特に、宗教を通じた共同性の形成を、宗教的実践だけに注目して分析するのではなく、宗教団体が提供する援助活動やサークル活動なども含め多様な実践がどのように関係し合いながら、どのような質の共同性を生み出しているかという点に注目しながら分析する。

それに対して、仏教が極めて強い影響力をもつ草原部においては、キリスト教の流入による新たな共同体の形成が、既存の共同体にどのような影響を与え、互いにどのような関係をもつようになっているかを分析する。特に、牧畜文化と仏教の双方に深い関わりをもつ、草原部の年中行事や家庭内祭祀、オボー祭祀などの地域儀礼などを中心に、他宗教流入の影響を分析することによって、そこに生じている葛藤やその解決方法を明らかにする。

また、国外においては、モンゴル人のコミュニティが発達している韓国および米国において、仏教寺院やキリスト教会がモンゴル人の共同性の結節点としてどのような役割を果たしているかを明らかにする。特に、米国においては永住権取得者の増加にともない、モンゴル人コミュニティの維持に関する問題がさまざまなレベルで生じてきている。例えば、移民 2 世のモンゴル語やモンゴル文

化の喪失が現実的な問題になるにつれ、「モンゴル人らしさ」がこれまでなかった課題として意識されるようになってきた。そのような問題と仏教やキリスト教によって結ばれる宗教的共同性がどのように関係しているかを明らかにする。

以上の分析を統合することで、モンゴルの草原部、都市部、そして国外のそれぞれの場所で、在来あるいは外来の宗教が新たな共同体の形成にどのような役割を果たしているかを明らかにすることが、本研究の目的である。

３．研究の方法

本研究の方法は、モンゴル国の都市部および草原部、韓国、米国における参与観察調査を中心としたフィールドワークによって行われた。

(1) モンゴル国でのフィールドワーク

モンゴル国では、その都市部および草原部においてフィールドワークを行い、キリスト教などを通じた新しい共同体の形成に関する以下のような調査を行った。

モンゴル国のウランバートルでは、宗教団体における宗教的実践と慈善活動などが重なり合うなかで、どのように人々の共同性が生み出され、それがどのような特徴をもっているかについて参与観察調査を行った。

また、モンゴル国草原部においても、キリスト教会の諸活動に関する調査を行った。特に、遊牧民の宗教生活について参与観察調査を行った。さらに、キリスト教徒と仏教徒のあいだの軋轢や、遊牧生活と深く結びついた仏教的要素を含む行事、儀礼についてキリスト教徒がどのように認識し、発生する諸問題をどのように解決しているかについて聞き取り調査を行った。

(2) 韓国でのフィールドワーク

韓国では、在韓モンゴル人のコミュニティにおける宗教団体や宗教的実践の機能に関する調査を行った。

ソウル市内のモンゴル人キリスト教会において、教会がコミュニティ形成に果たしている役割についての参与観察調査を行った。また、韓国におけるモンゴル人教会とモンゴル国における教会との信仰、経済、政治を通じた影響関係を分析するために、両国における教会の関係や共同活動についての資料収集および聞き取り調査を行った。

(3) 米国でのフィールドワーク

米国では、在米モンゴル人のコミュニティにおける宗教団体や宗教的実践の機能に関する調査を行った。

具体的には、インディアナ州においてモンゴル人の宗教生活に関する実態調査を行った。特に、永住権の取得などに伴う長期的な国外生活のなかで起きている宗教生活の変化とコミュニティの関係について参与観察や聞き取り調査を行った。また、同じ地域において、仏教儀礼を通したモンゴル人コミュニティの共同活動に関する参与観察調査を行った。

以上の 3 年間の研究成果を総括し、現代モンゴル社会における人と宗教の移動に伴う新たな共同体形成についての総合的な分析を行った。

４．研究成果

2014 年度は、モンゴル国および韓国における現地調査を実施し、モンゴル国の都市部および草原部と国外（韓国）において、キリスト教によって取り結ばれる共同体の実態と特徴について明らかにした。

モンゴル国ウランバートル市では、福音派教会と福音派系ＮＰＯで参与観察調査を実施し、福音派による援助活動が「救い」の感覚をともなって孤立した人々を結びつける重要な契機となっていることを明らかにした。また、トゥヴ県の草原部では、遊牧民の福音派教徒に対する調査を実施し、都会から遠く離れた場所にありながら、信仰にもとづく共同性が彼らをグローバルなネットワークに結びつけていることを明らかにした。

また、ウランバートル市において在韓経験のある福音派教会牧師に対する聞き取り調査を行い、韓国のモンゴル人教会の実態や母国と韓国の福音派ネットワークに関する情報を収集した。また、同市の聖典聖書協会における聞き取り調査によって、聖書翻訳事業を通じたモンゴルの教会と韓国人宣教師の影響・協働関係について明らかにした。

韓国では、ソウル市の韓国中央教会中谷洞のモンゴル人集会において参与観察調査を行い、韓国におけるモンゴル人福音派教徒の宗教活動と生活の実態に関する調査を行った。それによって得られた資料の分析によって、在韓モンゴル人教会の活動実態と、キリスト教会が在韓モンゴル人を引きつける諸要因、モンゴルの教会と在韓モンゴル人集会との影響関係などが明らかになった。

2015 年度は、モンゴル国および韓国における現地調査を実施し、国家をまたぐ人の移動とその宗教によって取り結ばれる新たな共同体の実態と特徴について明らかにした。

モンゴル国では、ウランバートル市内の複数のキリスト教会において教会活動の参与観察調査を行い、キリスト教の国際的なネットワークとそれにもとづく活動が、本国における宗教活動と意識に及ぼしている影響について明らかにした。

韓国では、モンゴル人教会の活動に関する参与観察調査を行い、彼らの宗教生活の実態を明らかにした。特に 2 月に実施した調査に

おいて、在韓モンゴル人教会によって開催された正月を祝う特別礼拝に参与観察調査し、このような伝統的行事において彼らの異邦における宗教意識と民族意識がどのように活性化され、結びつけられているかを分析した。

以上の調査資料の分析を通して、異邦における宗教生活が新たな民族意識にもとづく連帯感を醸成し、そのような民族意識がモンゴル国のモンゴル人のみならず、ブリヤートや内モンゴルを含めた広い意味での「モンゴル民族」への宣教活動のモチベーションとなり、それによって越境的なネットワークが形成されつつあることを明らかにした。

2016 年度は、韓国、英国、日本における現地調査を実施し、人の移動と宗教によって取り結ばれる新たな共同性の実態と特徴について明らかにした。

韓国では、2 カ所のモンゴル人キリスト教会において参与観察調査を行い、信徒の宗教生活および宣教活動の実態を明らかにした。また、英国における現地調査では在英モンゴル人キリスト教徒に聞き取りを行い、キリスト教徒の国際的なネットワークと英国における活動の実態を調査した。以上の調査資料の分析を通して、キリスト教のネットワークがグローバルに展開しており、異邦に暮らすモンゴル人にとって、そのような宗教的連帯が日常生活に関わる情報交換や相互扶助など宗教生活以外の文脈においても重要な役割を果たしていることが明らかとなった。また、異邦における活性化した民族意識が、在外モンゴル人やモンゴル系諸民族へ向けた宣教活動のモチベーションとなっており、在韓のモンゴル人教会が、そのような民族意識の醸成と宣教活動活性化の一つの重要な在外拠点となっていることが明らかになった。

一方で、仏教についても、活仏などのグローバルな活動が日本や米国に暮らすモンゴル系諸民族同士を結びつける機会を提供し、そのネットワークを通じて国境を越えた慈善活動が行われていることなどが明らかとなった。

以上の各年度の調査とその分析から明らかになったのは、人の移動に伴うグローバルな宗教活動とそのネットワークが果たしている役割の重要性である。キリスト教においても仏教においても、人々の信仰は国外で活性化した民族意識と密接に結びつきつつある。そのような民族意識は、モンゴル国のモンゴル人だけではなく、ブリヤートや内モンゴルのモンゴル人、さらにはモンゴル帝国に由来する諸民族へも向けられ、宣教や共同の儀礼という形で具現化するのである。

また、そのような宗教を媒介とした共同性は、相互扶助などの非宗教的次元にも及んでいる。特に、仏教の場合には、国境を越えた慈善活動も行われているが、このような現象はモンゴル国内の仏教ではほとんど見られない。

以上のことから、人の移動、とくに国際的な移動は、「モンゴル」という民族イメージ、つまり「エスノスケープ」を大きく変貌させてきており、宗教がそのようなイメージの動態に大きく関与すると同時に、宣教や儀礼その他の共同活動を通じて、イメージを具現化する一つの場ともなっていることが明らかとなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 滝澤克彦、「宗教の越境と文脈―宗教的ダイナミズムをめぐる存在論的・認識論的前提の批判的検討を通した超域的議論のための方法論的考察」、『多文化社会研究』、第 3 号、査読有、2017 年 3 月、117-129 頁

② 滝澤克彦、「〈世界の思潮〉社会主義の残したもの―「宗教」に関わる歴史的実験の帰結」、『アステイオン』、Vol.85、査読無、2016 年 11 月、210-214 頁

〔学会発表〕（計 9 件）

① 滝澤克彦、「モンゴルの福音派キリスト教における在韓モンゴル人教会の意味」、「宗教と社会」学会第 24 回学術大会、2016 年 6 月 12 日、上越教育大学（新潟県・上越市）

② 滝澤克彦、「モンゴル福音派の事例を通して見えてくるもの」、東アジアキリスト教交流史研究会第 7 回ワークショップ、2016 年 1 月 29 日、神戸学生青年センター（兵庫県・神戸市）

③ 滝澤克彦、「越境する宗教 モンゴルの福音派―ポスト社会主義モンゴルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭」、サントリー文化財団フォーラム、2016 年 1 月 20 日、サントリー文化財団（大阪府・大阪市）

④ 滝澤克彦、「モンゴルの福音派キリスト教―文脈化と民族主義のあいだ」、日中社会学会第 27 回大会、2015 年 6 月 7 日、北海道大学（北海道・札幌市）

⑤ 滝澤克彦、「モンゴルの福音派キリスト教と民族主義」、第 57 回印度学宗教学会学術大会、2015 年 5 月 31 日、東北大学（宮城県・仙台市）

⑥ 滝澤克彦、「聖書翻訳を通して見るモンゴル宗教文化交流史」、東北大学東北アジア研究センター2014 年度研究成果報告会、2015 年 3 月 24 日、東北大学（宮城県・仙台市）

⑦ 滝澤克彦、「モンゴル国における聖書翻訳間の影響関係」、東北アジア研究センター公募型共同研究「聖書翻訳を通して見るモンゴル宗教文化交流史」公開研究会、2015 年 3 月 21 日、東北大学（宮城県・仙台市）

⑧ 滝澤克彦、「在米モンゴル人の民族的アイ

デンティティとキリスト教」、日本宗教学会第 73 回学術大会、2014 年 9 月 14 日、同志社大学（京都府・京都市）
⑨ 滝澤克彦、「在米モンゴル人教会における民族意識と共同性」、印度学宗教学会第 56 回学術大会、2014 年 6 月 1 日、種智院大学（京都府・京都市）

〔図書〕（計 2 件）
① 滝澤克彦、『越境する宗教 モンゴルの福音派－ポスト社会主義モンゴルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭』、新泉社、2015 年 3 月、総頁数 283 頁
② 小長谷有紀・前川愛編（内田敦之、滝澤克彦他 25 名執筆）、『現代モンゴルを知るための 50 章』、明石書店、2014 年 9 月、総頁数 328（担当箇所：29-34，275-279，286-290）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
滝澤　克彦（TAKIZAWA，Katsuhiko）
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：８０５１６６９１